

わくわく本だな 夏休み号

富山市立図書館

おおむかしの

ちきゅう
地球をさぐろう！

「マンモスの謎」 (えほん)

アリキ / 作 あすなろ書房

何万年もむかしの地球には、恐竜など様々な生き物がくらしていました。やがて、氷河期という寒い時代がやってきて、多くの生き物が死んでしまいます。でも、皮が厚く毛の長いマンモスは、生きのびることができたのです。



「マンモスが地球を歩いていたとき」

キャロライン・アーノルド / 作 新樹社

マンモスの種類や、人とのかわりが、美しい絵で描かれた本です。日本で見つかったマンモスのことも書かれています。

今年開かれている『愛・地球博』で話題になった冷凍マンモスは、いつの時代の生き物でしょう。マンモスが生きていたのはどんな世界だったのでしょうか。

おおむかしの地球を感じられる本を紹介します！

「化石はおしえてくれる」(えほん)

アリキ / 作 佑学社

何億、何千万年もむかしのことがわかるのは、生き物の骨が化石になって残っているから。じゃあ、どうして、くさったりくずれたりしないで残ったの？

わかりやすく教えてくれるこのシリーズは、このほかに、「恐竜をほりだす」「恐竜のけんきゅう」などがあります。

「なぜ大昔のことがわかるの？」

化石と地層のはなし」

今泉 忠明 / 作

偕成社



「どうくつをたんけんする」 堀内 誠一 / 作 福音館書店



「暖かい地球と寒い地球」 北村 晃寿 / 作 福音館書店

おとなりの石川県の金沢市を流れる犀川。その川原に、貝の化石がたくさんあります。この化石をとおして、地球の寒かった時代と暖かい時代について考えてみましょう。

“平和”について考えよう！

ことは、世界の大きな戦争せんそうが終わってから、60年目。
しかし、今もどこかで、あらいがつついています。
わたしたちが、平和へいわのためにできることを考えましょう。

「アンナの赤いオーバー」 (えほん)

ハリエット・ジーフェルト / 作 評論社

アンナは、戦争せんそうがおわったら、あたらしいオーバーを買ってもらうことになっていました。けれども、戦争がおわったとき、こわれた町には、食べる物さえありませんでした。それでもお母さんはちえをしぼり、みんなに助けてもらいながら、アンナの赤いオーバーをしあげました。



「ぼくは弟とあるいた」 (えほん)

小林 豊 / 作 岩崎書店

戦争をさけて南の町へ行こうと、兄弟はバスに乗りこみました。ところが、バスが砂漠さばくのまん中で故障こしょうしてしまいます。

「こんな砂漠を歩くのか！」「のどがかわいて死んでしまうぞ！」みんなは口々にもんくをいいます。でも、歩きつづけるほかに方法はないのです。

戦争ととなりあわせに生きる中東・アジアの子どもたちの姿すがた えがを描いています。



「ぼくの見つた戦争 2003年イラク」

高橋 邦典 / 作 ポプラ社

人間どうしがころしあう戦争せんそう。田畑も町も、人の心もこわしてしまいます。2003年3月、アメリカは、あぶない兵器へいきを持っているという理由りゆうで、イラクを攻撃こうげきしました。いやおうなく戦争にまきこまれ、人々は苦しみます。

アメリカ軍ぐんと行動をともにした、日本人カメラマン高橋たかはしさんの記録きろくです。



「おとなはなぜ戦争するの」

子どもの声を聞く児童文学者の会 / へん 新日本出版社

「どうしておとなは戦争をするんだろう？」

「どんなわけがあっても、戦争はしてはいけません」

世界のあちこちでおこっている戦争を、早くやめさせてほしいとねがう、日本の子どもたちの声をあつめた本です。



「平和へ」

キャサリン・スコールズ / 作
岩崎書店

かけがえのない地球、いのち、愛するひとびと。

これらをまもるためには、平和な世界をつくらなければなりません。それは、ひとりひとりがちがうということを、みとめあうことから始まります。

「さとうきび畑の唄」

遊川 和彦 / 作 汐文社

昭和16年、沖縄には、いつもとかわらぬ青い空と美しい海がありました。しかし、戦争が始まると、しあわせにくらしていた平山家にも、くらいかげがさしはじめます。やがて長男が戦争に行くことになり、家族はばらばらに。そして沖縄は戦場となりました。



「彼の手は語りつく」 (えほん)

パトリア・ポラッコ / 作

あすなる書房



アメリカの南北戦争の時におこったできごとです。重傷をおって、死にそうになった白人の少年兵と、かれを助けた黒人少年兵。二人は深い友情でむすばれました。しかし、戦争と人種差別が、二人をひきさきます。

= 1・2年
= 3・4年
= 5・6年



あたらしくはいった本

- あたらしくはいった本の中から、おすすめの本をしょうかいします -

「あげた おはなし」 (えほん)

中山 千夏 / 作 自由国民社

りょうてをあげた。てんぷらあげた。
いろいろあげておしまい、
わけてあげたよ、たからもの。
そしたら、なぜだかいいきもち。



「あげた」がいっぱいのおはなし。

「おともださにナリマ小」

たかどの ほうこ / 作 フレーベル館

山の中に、1年から6年まで、たった
15人しかいない小さな小学校がありました。
ある日、学校にへんてこな手紙がとどきました。
「おともださにナリマ小」ってかいてあります。
1年生になったばかりのハルオだけが、
その手紙のわけを知っていました。



「アイスクリームの絵本 - つくってあそぼう 6 - 」

みやち ひろひと / へん 農山漁村文化協会



舌もとろけるようなアイスクリーム！
しばりたての新鮮な牛乳と生クリームを使うことが、おいしいアイスクリームを作る基本だそうです。この本では、アイスクリーム作りのプロが、おいさを引き出す工夫を紹介しています。



あなたもこの夏休みに、ぜひ、オリジナルアイスを作ってみませんか？

「メリーな夜のあぶない電話」

- タカオのつくもライフ 2 - 」

斉藤 洋 / 作 佼成出版社

ぼくは、庭で古い携帯電話を見つけました。ところが、夜中にいきなりなりだしたかと思うと、「きけんがせまっているんです。助けてください...。」といったきり、きれてしまいました。

だれを助けたらいいの？
いったい、どうやって？



「マエストロ! MONNNA探偵事務所」

怪盗ベースボール事件」

新庄 節美 / 作 ポプラ社

ちょっとたよりないけど運動神経ばつぐんの少年大夢、気が強い探偵マニアの少女芽杜。2人のすむ町で、公園のペンギン像が盗まれるという事件がおきました。なくなったあとには野球のバットがおいてあり、そこには“怪盗ベースボール”の文字が...

2人は、大夢のおじいちゃん(実は超大大物?)の力をかりて、事件に挑みます。

